

平成24年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	大学・附属幼稚園・附属小学校の協同による保育実践の開発 一人とかわり、言葉でつながり合う幼児を育てる保育を目指してー		
プロジェクト期間	平成24年度		
申請代表者 (所属講座等)	山元悦子 (国語教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	加藤隆之(美術教育講座)・丁子かおる(幼児教育講座)・千本木直行(美術教育講座)・松久公嗣(美術教育講座)
取組方法・取組実績の概要	<p>「描画による造形遊び」に関して 本年度の附属幼稚園研究テーマに即して、造形活動を通じた言葉でのつながりについて実践を通して調査した。当初の予定通り、附属幼稚園の年長クラスを対象に、「クレヨン作り」と「クレヨンを使った描画の共同制作」の二回の保育実践をおこなった。</p> <p>「絵本の読み聞かせを媒介としたことば育て」に関して 絵本の読み聞かせを聞くことで幼児集団内に成立した物語世界を媒介にして、幼児同士の間で共有されたコミュニケーション空間が成立することに注目した保育実践を行った。福岡教育大学附属幼稚園の年長児クラスを対象に、五冊の絵本を用いて、五回のお話し遊びを実施した。</p> <p>「幼稚園における幼児が絵や彫刻を楽しむ鑑賞教育の実践的研究ー幼児の言葉と表現を育む環境としてー」 直方市立直方谷尾美術館の協力により絵画を2点、また、共同研究者より3点の作品の貸与及び設置いただき、幼稚園の各年齢における鑑賞実践の保育を行った。その後、共同研究者の実践における分析の助言をもとに、ビデオから子どもの様子や発話の分析、保護者アンケート、保育者インタビューを分析し、言葉を通しての人間関係の育ちなどを調査した。</p>		
研究成果の概要	<p>「描画による造形遊び」に関して 造形活動、表現、共同制作という一連の保育を通して、共通体験や共同制作のなかで感じた言葉による関わりが生まれた。これは、遊びと保育の両面から得られるつながりであり、この点に造形遊びの有効性を見いだすことができた。</p> <p>「絵本の読み聞かせを媒介としたことば育て」に関して 2013年2月に、5歳児の説明力調査を行った結果、理由・順序・目的・場合分け・想定・仮定・推測・機能という説明表現の使用がみられた。また、「お話し遊び」活動が契機となって、設定保育の活動や素材に対する興味・意欲を育てることができた。</p> <p>「幼稚園における幼児が絵や彫刻を楽しむ鑑賞教育の実践的研究ー幼児の言葉と表現を育む環境としてー」 子どもたちを惹きつける作品を選択して環境として設置し、開かれた言葉、認める援助をすることで、絵画、彫刻ともに幼児にとって人間関係の育ちを促す言葉のやり取りがあり、分析結果では発話文のうち4歳は37.5%が、5歳は45.1%が関連で話したことを明らかにした。また、保護者の子ども理解にもつながる実践であった。</p> <p>1.丁子かおる 和歌山大学「幼稚園における鑑賞教育の実践的研究ー幼児の言葉と表現を育む環境としての絵画鑑賞ー」大学美術教育学会大分大会 口頭発表 2012.10.21 2.丁子かおる 和歌山大学「幼稚園の年中児と年長児における言葉の比較と援助ー幼児が絵画をみて楽しむ鑑賞教育の実践事例を通してー」美術科教育学会島根大会 口頭発表 2013.3.29 3.丁子かおる 科学研究費補助 若手研究 B27730751 「生活基盤型保育における知的教育の研究ー造形の遊びから学力を可視化するー」成果報告 (2013年度予定)</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について [<input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。]			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 (国内・国外) : <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : <input checked="" type="checkbox"/> その他 : 科研報告書など